柏原市の財政を揺るがす、市立柏原病院の赤字！人件費が約70％以上かかっている？

柏原市はさまざまな赤字の問題を抱えている。「市立柏原病院」「サンヒル柏原」「アゼリア」等。「竜田古道の里山公園」「市民交流ひろば」「ごみ問題」等不透明な問題があまりに多いのではないかと？

市立柏原病院
採算がとれないため、市の財政から毎年巨額の税金を補てん

「3年以内に病院を黒字にする。出来なければ市長を辞職する」と豪語していた岡本市長だが、もうとっくに3年を経過した。平成22年度は、一般会計から12億円近くが繰り出されている。収支の赤字、特例債の返済、起債の返済を併せると毎年、市の財政から10億以上の繰入金が必要である。柏原市の市税は減少してきている、市立柏原病院へ多額の赤字補てんは市民サービスが低下することになる。市内の道路、水道管の老朽化に対する補修整備などは、現状の危機管理を考えても必要である。

市長が言っている「余る予算」は本当に余っているのだろうか？市民目線から見ても、ゆとりのある柏原市政には見えてこないと思う。

サンヒル柏原
補助金のなくなった今年からは赤字が必至

3年ほどの前に社会保険庁から買い取った「サンヒル柏原」も、岡本市長が「私は数字に強いから、まちがいなく黒字経営で市民の憩いの場にする」といったものの、社保庁からの5000万円がなくなった今年からは、赤字は必至である。

民間企業は赤字になれば、真っ先にするのは人員削減、給与の減額などである。サンヒル柏原も同じようにすべきである。無用な役職、あまり発言もしない理事は必要があるのだろうか？ほとんど市長の昵懇の方と云うウワサがある。

顧客にとって食事の内容が一番大切である。「まずい」と不評があったが、一時「良くなった」と評判も上がっていたようであるが、最近、市民から「冷凍である、不味くなった」とウワサが出ている。個人差もあるので単なるうわさに過ぎないかもしれない。黒字にするには大きな改革が必要である。

市に、不利な条件の委託業者との契約内容を変更するか、破棄すべきであると思うが、何故しないのか疑問に思う。この委託業者を市に紹介したのは、市長の友人と聞いている。

かしわら見張り番

百条委員会の一部委員、留所山・亀の瀬を視察！？驚愕の現状！？

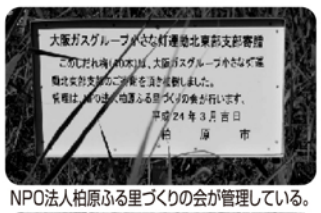
何故、柏原市が2500万円以上の維持管理費を負担するのか？わけのわからない覚書に疑問を・・・。

猛暑の中、亀の瀬を視察した。その広大さに驚愕した約90万m²（約30万坪）、ほとんどが人の背丈もあるような草が多い茂り「レモン」が見当たらないのである。見つけたレモンの多くは育たずに枯れ果てていた。ある企業が寄贈し、NPO法人柏原ふる里づくりの会が管理委託されている「しだれ梅」は、しだれ梅でなく「しなだれ梅」と化し、この猛暑の中、水分不足であろう痛々しい思いがした。市長は「市民協働で、亀の瀬のレモン畑を維持管理する」と謳っていたが、広大な土地活用に計画性ある充実した施策を持っていたのか疑問思う。以前、亀の瀬の草刈りに年間一億円程の費用がかかると聞いていたが、草だらけの亀の瀬をみて真実のように思えた。市長は、亀の瀬は国交省から移管されていないといっている（一部は上面利用）。亀の瀬全域は、ほとんど雑草が生い茂っている。何故、草刈しないのか？

NPO法人が管理委託されている他の企業のレモン畑も同じ状態であった。

NPO法人の前理事長は学者である。生物を育てるには、知識・愛情・根気が必要と思わなかったのかと疑問に思う。

百条委員会は、留所山が公園になったことに異議を言っているのではない。今後、公園の維持管理費を柏原市だけに、柏羽藤環境事業協同組合が賄わせることに問題があると言っているのだ。留所山は3市の処分場であったので3市が分担すべきであると言っているのである。



NPO法人柏原ふる里づくりの会が管理している。

枯れているしだれ梅、悲しそう。

この企業も同じ状況である。

枯れたレモン…。

どこにあるのレモン？

市民の声

「かしわら見張り番」に寄せられた市民の方からの声をご紹介します。

ダチョウが何故死んだのか？そんな計画があったのか！かわいそうだと市民からも声が

市民の方から連絡をいただいた。前号で掲載した竜田古道の里山公園のダチョウの件である。

「あそこの公園はほんとに不便なところですね。あんなところにこんな予算がつぎ込まれているとは知りませんでした。

そこにダチョウが飼われていたんですね。それで全てのダチョウは死んでいるってなんですか？残っているのは立派な檻だけだそうじゃないですか。ダチョウの購入費って40万円もかかっているんですね。人里離れたこの場所でなんのために、飼育しょうとしたのか市民に説明してほしいです。

ダチョウは寿命が80年らしいですね。飼育する環境づくりができていたんですか？巷のウワサでは、エサが十分でなく、嘱託職員がお店等にキャベツなどを集めに回っていたという話もあったそうですね。動物を飼うならもっと責任をもってやってほしいです。犬だってみんな飼うときに、長生きさせてあげたいと家族同様に扱うじゃないですか。

パトロール

奈良県会議員の阪口氏は長らく中学校で教べんをとっておられただけに、学校現場で起こっていることに詳しい。「保護者がすごく私を信頼してくれたので、がんばらなあかんと思いました。保護者や生徒の期待が自分を育ててくれました。もっと教師と親は積極的に対話しないといけないです」の言葉に、コミュニケーションの重要性を感じた。◆いつのまに教師と親との関係が変わってきたのだろう。確かに暴力はいけないが、生徒へ愛情を持つ教師のゲンコツの一発や二発、親だって理解をするはずだと個人的には思う。いじめをなかったことにする教師が存在する一方で、生徒に対して真摯（しんし）に向き合い、病院へ行く時間も惜しんだため、病に倒れた先生もいると聞く。◆「私自身も未熟なところがあって失敗もしたのですが、生徒そのものはものすごく理解をしてくれた」と阪口氏は言う。子どもは鋭く大人を観察している。どの教師が味方かを見抜く力を持っているのだ。

原発・放射能について考えよう！

放射能のがれき問題など、原発に関連する市民の方の意見を募集しています。みんなで考えていきましょう。

電話 072-977-5502
FAX 072-977-8782
〒582-0026 柏原市旭ヶ丘2丁目4番25号
info@kashiwara-mihariban.com